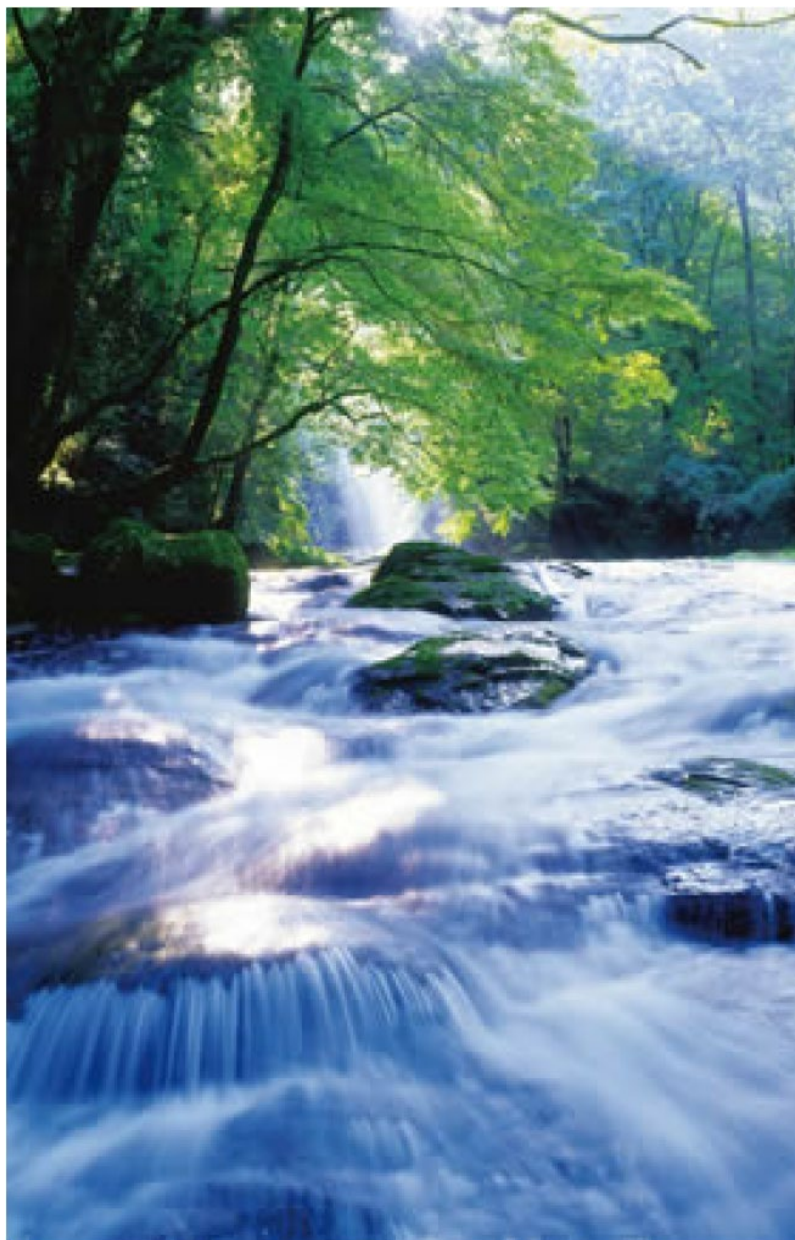


環境活動レポート



(平成30年 9月 1日～令和元年 8月31日)



令和元年11月5日作成



株式会社

昇 和

目次	ページ
1 当社の理念	3
2 環境方針	4
3 活動状況グラフ	5
(1) 全社の売上高推移	(2) 産廃処分量の推移
(3) 電力使用量の推移	(4) 燃料使用量の推移
(5) ガソリン使用量の推移	(6) 収集運搬車両の燃費推移
4 取組の対象組織・活動	8
1) 組織の概要	
(1) 事務所名および代表者名	(2) 所在地
(3) 環境管理責任者及び担当者	(4) 事業の内容
(5) 資本金	(6) 売上高
(7) 組織図	(8) 法人設立年月日
2) 許可・登録の内容	9
(1) 産廃業	(2) 建設業
3) 事業の規模・施設等の状況	9
(1) 従業員数	(2) 事業所敷地面積
(3) 車両	(4) 主要設備
(5) 処理工程図	9-10
4) 処理実績	11
5) 廃棄物処理料金	12
6) 解体工事実績	12
5 環境目標とその実績	13
5-1 環境目標	
【全社】	13
【西向島リサイクルセンター】	14
【解体業工事関係】	15
5-2 環境活動の実績と評価	16
【全社】	16
【西向島リサイクルセンター】	17
【解体業工事関係】	18
6 主な環境活動計画の内容と取組結果の評価	19
7 環境・安全への取組み	20
8 主な環境関連法令への違反、訴訟等の有無	21
9 有資格一覧	22
10 総括（代表者による全体評価と見直し）	23
11 次年度での取り組み	23

1. 当社の理念

私たちが大切にしていること / PHILOSOPHY



Bond of a soul — 魂の絆 —

私たち「昇和」が一番大切にしていること、それは“絆”。

お客様との絆、パートナーとの絆、社会との絆、そして、なにより大事にしているのが、社員ならびに社員同士の絆です。

社長を筆頭に、全員が同じ方向を向き、同じ目標を持って進むためにも、それぞれが強固に結びつき、魂と魂の絆を深めています。

そんな“魂の絆”を結ぶためには、互いの信頼関係を何よりも大事にして、何時いかなるときも決して裏切らず、いかなる仕事に対しても常に真摯な態度で臨み、全員一丸となって仕事に取り組んでまいります。

信頼とは、一朝一夕に築き上げることはできません。ほんの一瞬で崩れ落ちていく怖さとその危うさを知っているからこそ、私たちは一度結んだ“絆”を緩めないため、皆様との信頼関係を保ち続けることに全力を尽くしています。そうした盤石の信頼関係の上に結ばれた絆こそ、心の奥底で結びついた、まさに“魂の絆”といえるのではないのでしょうか。

何よりも強く揺るぎのない「魂の絆 —Bond of a soul—」で結ばれた私たち「チーム昇和」は、古くからの慣習に縛られたこの業界に新たな革新を起こすために、誇りと自信を持って只ひたすらに邁進してまいります。

2. 環境方針

私たちは、美しい地球環境を守り次世代へ伝えていくことの大切さを常に考え行動します。

私たちは、全社一丸となって、解体工事から産業廃棄物の収集運搬・処分及び再資源化業務を通じて、建設廃棄物のリサイクル率向上・環境負荷低減を進めることによって、循環型社会形成に貢献します

1. 企業の社会的責任を果たすため、企業倫理を守り、法令及び関係先からの要請を遵守し、社会に貢献していきます。
2. 地球環境の維持・向上に寄与するため、事業活動の環境目標及び行動計画として下記の重点項目を設定します。
 - ① 解体工事など建設工事に伴って発生する産業廃棄物および自社で発生し又は受託した産業廃棄物の分別・選別とゼロエミッションの推進
 - ② リサイクル施設の電力原単位低減と建設機械および運搬車両等の燃費向上による二酸化炭素排出原単位の低減
 - ③ 騒音、振動および粉塵発生の低減による環境に配慮した作業の促進
 - ④ 雨水の有効利用および効果的な散水実施を通じた用水使用量の削減による総排水量の削減
 - ⑤ 事務用品を中心としたグリーン購入の推進
 - ⑥ 本業において顧客等の環境協力を得て、再生品の品質向上を進めた販売強化
3. 環境コミュニケーションを通じて、環境活動の状況を内外に伝達します。
4. 全従業員に、この環境方針を周知します。

制定日 平成25年 3月29日

改訂日 平成29年 9月 1日

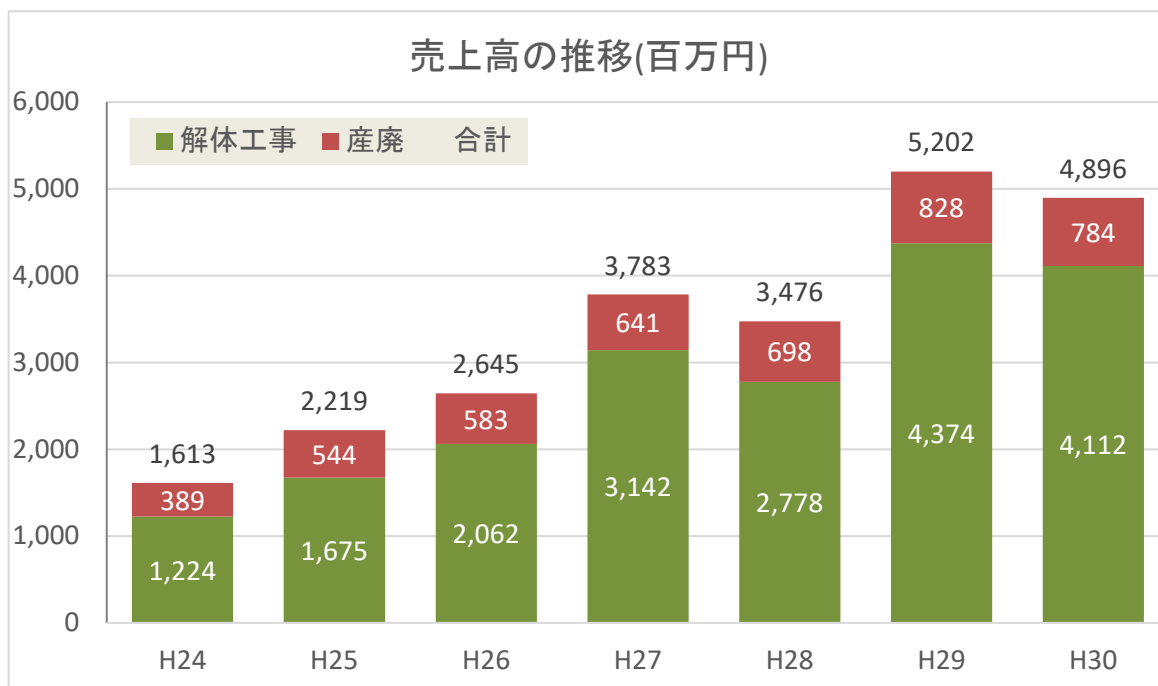
株式会社 昇 和
代表取締役 佐 藤 昇

署 名 佐藤 昇

3. 活動状況のグラフ

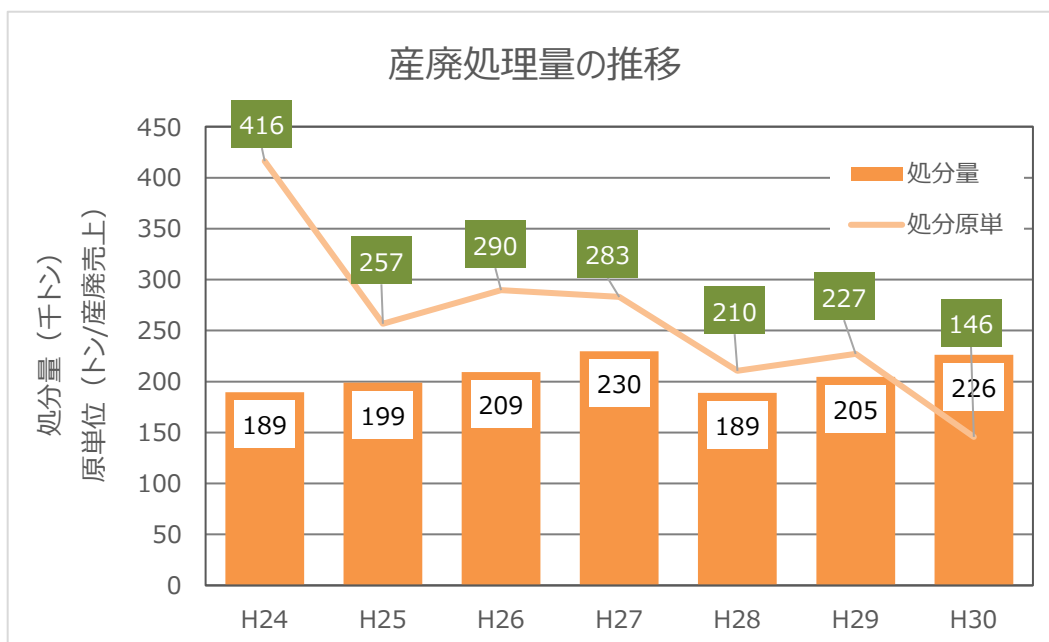
(1) 全社の売上高推移

売上高は毎年増加してきましたが、平成30年度は対前年比94%になりました。



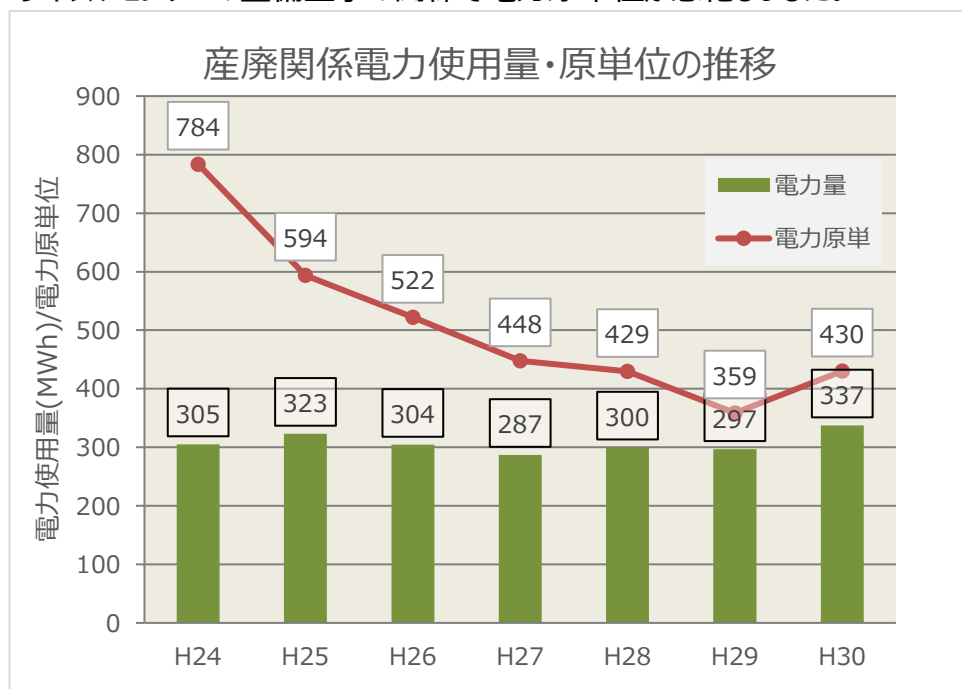
(2) 産廃処分量の推移

解体工事から排出されるコンクリートがらを中心に処理を行ってきました。最近では残土の処理量が増加しています。



(3) 電力使用量の推移

電力原単位は平成24年度以降順調に改善してきましたが、平成30年度は北港リサイクルセンターの整備工事の関係で電力原単位が悪化しました。

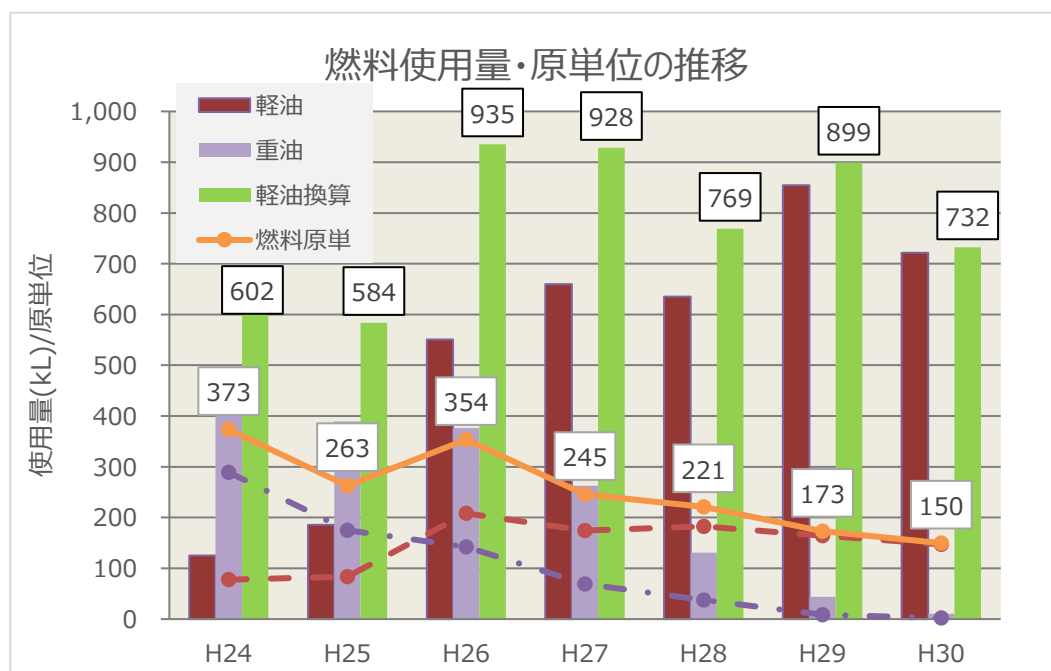


(4) 燃料使用量の推移

燃料の使用量は、解体工事現場の立地条件に大きく左右されるため、変動が大きくなっています。

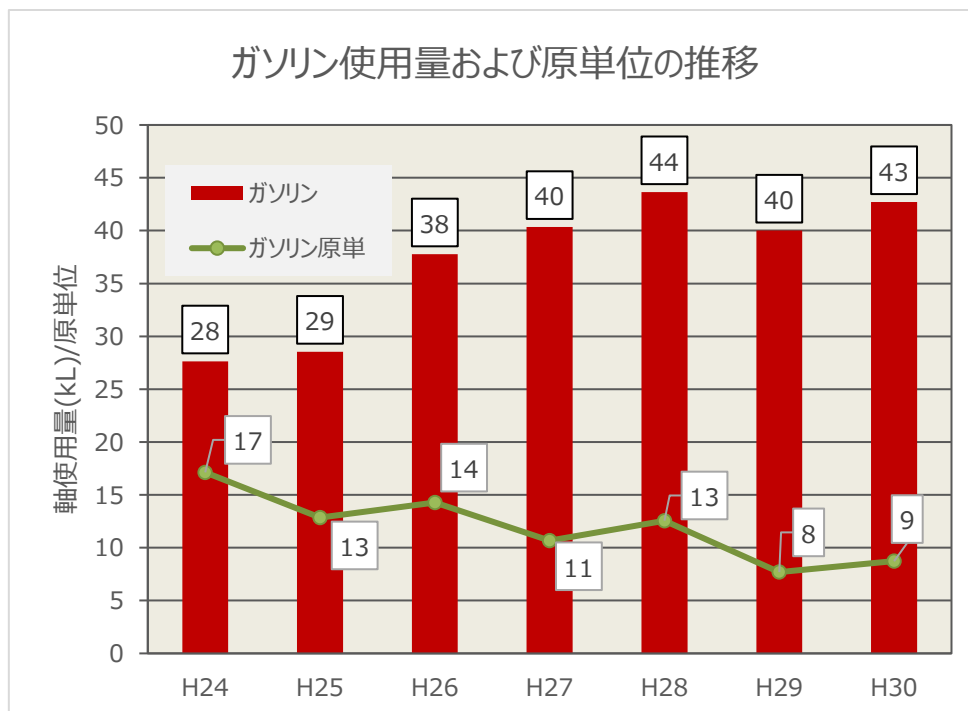
重油から軽油への切り替えを進めましたため、軽油の原単位はここ数年横ばいになっていますが、重油の原単位はほぼゼロになりました。

売上が順調に伸びてきましたので、原単位は改善傾向が続いています。



(5) ガソリン使用量の推移

社員数の増加や営業活動の活発化に伴い、ガソリンの使用量は増加してきました。社有車のハイブリッド化も3年前には終了しましたが、車両の更新時には燃費性能の高い車両を選択し、燃費改善の努力を継続しています。

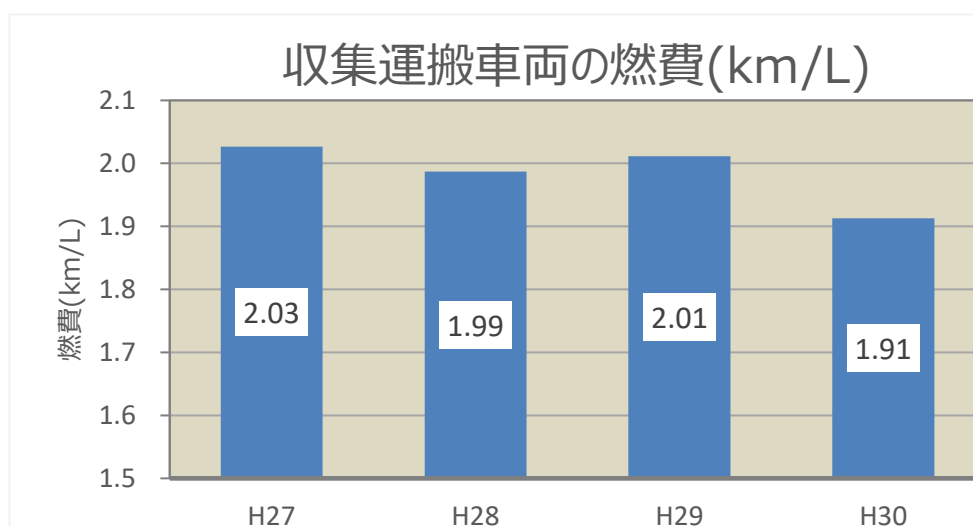


(6) 収集運搬車両の燃費推移

収集運搬車の燃費を測定していますが、

- ①車両の経年変化による燃費悪化
- ②工事現場とリサイクルセンターとの距離の長短
- ③高速道路利用の有無

など条件が毎年かなり変化しますので、省燃費運転の効果が十分表れていないのが現状です。



4. 取組みの対象組織・活動

1) 組織の概要

- (1) 事務所名及び代表者名

株式会社 昇 和
代表取締役 佐 藤 昇

- (2) 所在地

本社 : 大阪府大阪市港区田中二丁目1番1号
西向島リサイクルセンター : 兵庫県尼崎市西向島町111番5
北港リサイクルセンター : 大阪府大阪市此花区梅町二丁目4番114号

■ 認証・登録範囲(場所): 本社、西向島リサイクルセンター、北港リサイクルセンター

- (3) 環境管理責任者名・担当者連絡先

■ 環境管理責任者： 佐藤 佑樹

■ 担当者 : 森井 友一

■ 連絡先： TEL 06-6577-5555 FAX 06-6577-5565

■ E-mail: tomokazu.morii@showa.company

- #### (4) 事業の内容

- 1、産業廃棄物中間処理、収集運搬及びリサイクル
- 2、土木工事、杭工事、解体工事、建築工事
- 3、再生路盤材及び木材チップ製造・販売
- 4、汚染土掘削・運搬

■ 認証・登録範囲(現在): 全組織・全活動

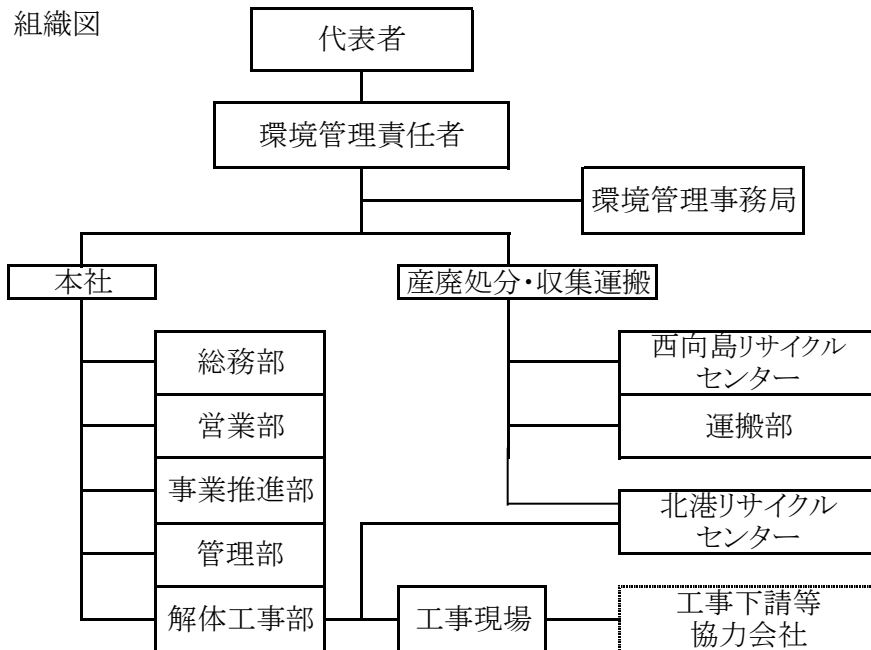
- (5) 資本金

5,000万円

- (6) 売上高(平成30年9月～令和元年8月)

4,896 百万円(うち産業廃棄物部門 784.5 百万円 解体事業部門 4,111.6 百万円)

- (7) 組織図



- (8) 法人設立年月日

平成 4年 3月

2) 許可・登録の内容

産 業 廃 棄 物 処 理 業															
	管轄 官公庁	許可番号	許可年月日	有効期限	汚 泥	廃 プ ラ ス チ ッ ク 類	紙 く ず	木 く ず	繊 維 く ず	ゴ ム く ず	金 属 く ず	ガ ラ ス く ず	鉱 さい	が れ き 類	積 替 ・ 保 管
収集運搬業	大阪府	02700161700	平成28年09月30日	令和03年09月29日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	兵庫県	02803161700	平成28年10月18日	令和03年10月17日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	京都府	02600161700	平成28年12月14日	令和03年12月13日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	奈良県	02900161700	平成28年10月21日	令和03年10月20日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	岡山県	03300161700	平成28年11月30日	令和03年11月08日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	滋賀県	02501161700	平成28年11月29日	令和03年11月21日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	三重県	02400161700	平成28年12月01日	令和03年11月30日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	岐阜県	02100161700	平成28年11月22日	令和03年11月21日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
	和歌山県	03000161700	平成28年10月21日	令和03年10月20日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	無
※石綿含有産業廃棄物を含む															
処分	尼崎市	07123-161700	平成28年09月01日	令和03年08月31日	石綿含有産業廃棄物を除く										
		中間処理方法ごとの種類			乾燥・破砕・整粒	●							●		●
					破砕		●	●	●	●		●	●		●

2. 建設業

管轄	国土交通大臣許可
許可番号	(特-28)第26341号
許可年月日	平成28年8月26日
有効期限	令和3年8月25日
許可業種 (11業種)	土木工事、建築工事、大工工事、左官工事、とび・土工工事、石工事、屋根工事、タイル・レンガ・ブロック工事 鋼構造物工事、鉄筋工事、舗装工事、しゅんせつ工事、板金工事、ガラス工事、塗装工事、防水工事 内装仕上工事、熱絶縁工事、建具工事、水道施設工事、解体工事

3) 事業の規模・施設等の状況

(1) 従業員数:71名(役員・正社員64名、パート3(4)名、臨時工4名) R1.8.31現在

(2) 事業所敷地面積

ア. 本社	:	707.6㎡
イ. 西向島リサイクルセンター	:	9,344.6㎡
ウ. 北港リサイクルセンター	:	23,926.9㎡

(3) 車両

ア. 収集運搬および工事車両の種類・台数:

スカニア R450	1台	UD 4tユニック	1台
スカニア R580	1台	いすゞ 4tダンプ	2台
ランゲンドルフ 28tダンプトレーラー	1台	日野 4tロールダンプ	1台
UD10tダンプ	11台+庸車 21台	トヨタ 3tダンプ	1台
いすゞ 10tセルフローダー	1台	三菱 2tダンプ	1台
UD 4tアームロール	2台	三菱 3tダンプ	1台
UD 4tロールダンプ	1台		



スカニア R580 + 日立 ZX480LCK (1.6m³)



スカニア R450 + Langendorf HARDOX LK-28a (28 t 積み)



イ. 作業車両：

日立 ZX1000K-3 (2.8m³)(ハイリフト) 1台
 日立 ZX480LCK (1.6m³) 1台
 キャタピラー CAT330DL (1.2m³) 1台
 キャタピラー CAT336E (1.2m³) 1台
 日立 ZX250LCK (0.9m³) 1台
 日立 ZX210K (0.7m³) 2台
 キャタピラー CAT320DLRR (0.7m³) 1台
 キャタピラー CAT320ERR (0.7m³) 2台
 キャタピラー CAT320DRR (0.7m³) 1台

キャタピラー CAT320E (0.7m³) 2台
 キャタピラー CAT314ELCR (0.45m³) 1台
 日立 ZX130K (0.45m³) 1台
 キャタピラー CAT972K (ホイールローダ) 2台
 日立 ZW310K (ホイールローダ) 1台
 自走式スクリーン CS5X10 1台
 ユニキャリア FHD25 (フォークリフト2.5t) 3台
 コマツ BR380JG (ガラパゴス) 1台
 コマツ WA430-6 (ホイールローダ) 1台



日立 ZX1000K-3 (2.8m³)

ウ. 営業車両： 普通乗用車 16台

(4) 主要設備

ア. 資源化再利用施設 (乾燥・破碎・整粒)

イ. 破碎施設

許可番号	施設の種類	設置年月日	産業廃棄物の種類・処理能力		処理方式
912007	木くず又はがれき類の破碎施設	平成10年01月23日	がれき類 2,340t/日 汚泥・ガラスくず等 2,340t/日		破碎・選別・篩い分け
915003	木くず又はがれき類の破碎施設	平成16年03月25日	木くず 27.2t/日	金属くず 15.4t/日 紙くず 23.3t/日	選別・破碎・篩い分け
915004	廃プラスチック類の破碎施設	平成16年03月25日	廃プラスチック類 22.2t/日	ガラスくず等 64.8t/日 繊維くず 17.1t/日	
—	汚泥の天日乾燥施設	平成23年08月22日	汚泥 (コンクリート残渣に限る) 2.6m ³ /日		天日乾燥

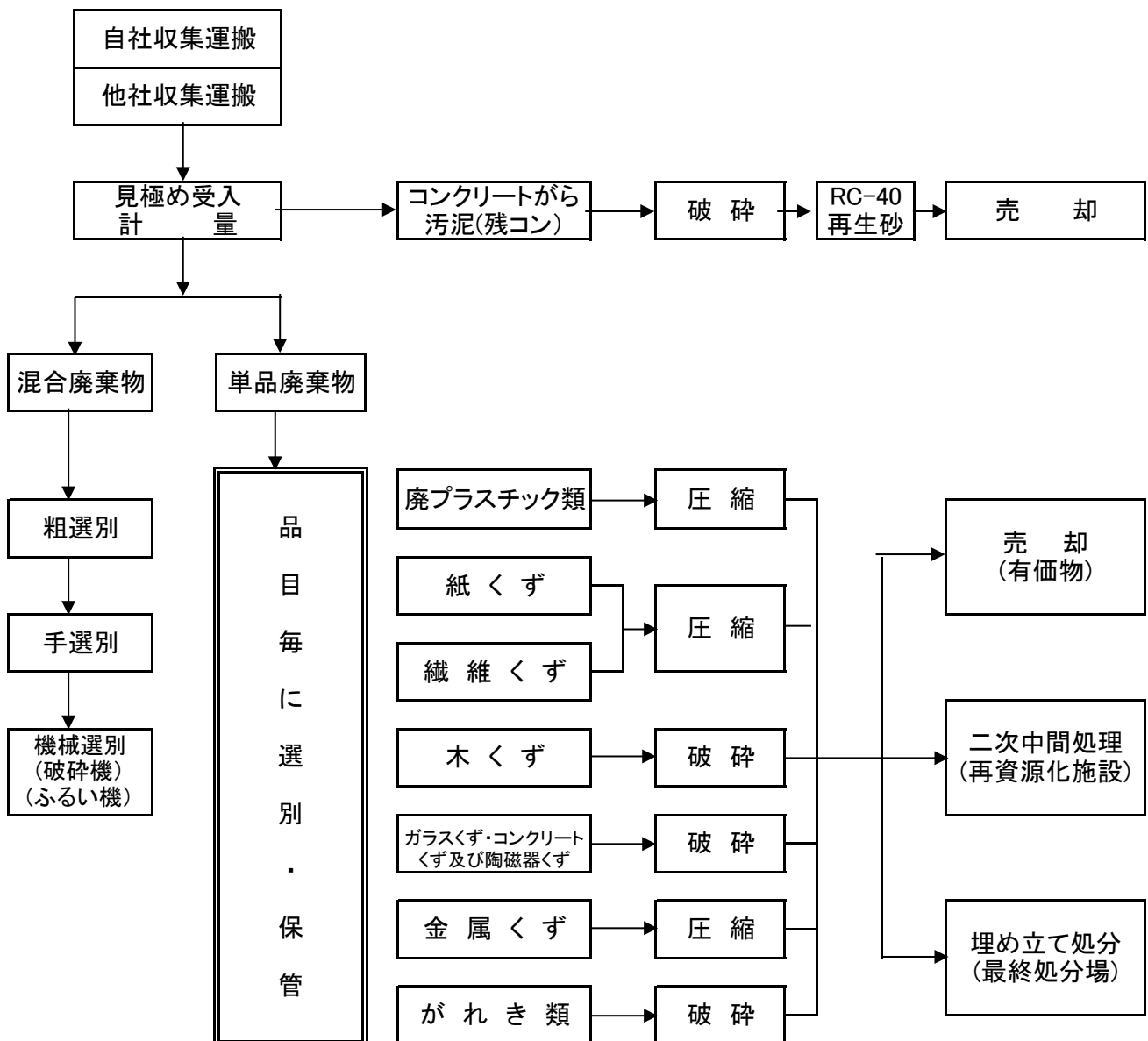


一次破碎機（ジョークラッシャー）



二次破碎機（インパクトクラッシャー）
磁力選別機（マグネットセパレーター）

(5) 処理工程図



4) 処理実績(平成30年9月～令和元年8月)

産業廃棄物取扱量： 収集運搬量： 170,933 t
中間処理量： 226,210 t

5) 廃棄物処理料金

個別見積書による

6) 解体工事実績(平成30年9月～令和元年8月)

公共工事：件数：21 件 受注高：885 百万円
(年度内工事施工高 564 百万円)

民間工事：件数：152 件 受注高：4,821 百万円
(年度内工事施工高 3,176 百万円)



5. 環境目標とその実績

5-1 環境目標

ユーティリティ使用量は、産業廃棄物関係および自社施工分の解体工事関係売上高を基準とした原単位を基準に設定しています。

【全社】 産業廃棄物処分業、解体業を含む全社分、年間売上高ベースとしています。

《電力に係る二酸化炭素の排出係数は、関西電力の平成26年度の調整後排出係数0.523kg-CO₂/kWhを用いています。》

項目 単位	H24年9～8月 (基準年度)	H28年9月～8月 (削減率)	H29年9月～8月 (削減率)	H30年9月～8月 (削減率)	R元年9月～8月 (削減率)
二酸化炭素排出量 kg-CO ₂ / 売上高 (百万円)	1,128	1,083 (▲4%)	1,072 (▲5%)	1,061 (▲6%)	1,049 (▲7%)
電力の使用量 kWh / 売上高 (百万円)	200	192 (▲4%)	190 (▲5%)	188 (▲6%)	186 (▲7%)
ガソリンの使用量 ℓ / 売上高 (百万円)	17.1	16.4 (▲4%)	16.3 (▲5%)	16.1 (▲6%)	15.9 (▲7%)
軽油の使用量 ℓ / 売上高 (百万円)	77.7	74.6 (▲4%)	73.8 (▲5%)	73.0 (▲6%)	72.2 (▲7%)
A重油の使用量 ℓ / 売上高 (百万円)	289	278 (▲4%)	275 (▲5%)	272 (▲6%)	269 (▲7%)
軽油+A重油の使用量 ℓ / 売上高 (百万円)	373	358 (▲4%)	355 (▲5%)	351 (▲6%)	347 (▲7%)
一般廃棄物排出量 袋 / 売上高 (百万円)	0.199	0.191 (▲4%)	0.189 (▲5%)	0.187 (▲6%)	0.185 (▲7%)
水使用量 m ³ / 売上高 (百万円)	0.189	0.182 (▲4%)	0.180 (▲5%)	0.178 (▲6%)	0.176 (▲7%)
グリーン購入 購入金額率 / 年	H28年実績値 75%	75% (基準)	77% (+2P)	79% (+4P)	81% (+6P)
再生路盤材販売量 千t / 年	128 H28年度基準 増加率	141 +10.0%	129 +1.0%	131 +2.0%	132 +3.0%

※ 軽油+A重油の使用量はA重油を発熱量を基準に軽油量(係数1.02261倍)に換算しています。

※ 環境配慮サービスは「再生路盤材販売量」増加を実施します。

※ 化学物質の取扱はありません。

5-1 環境目標(つづき産業廃棄物)

【西向島リサイクルセンター(北港リサイクルセンター分を含む)】

※ 電力に係る二酸化炭素の排出係数は、関西電力の平成26年度の調整後排出係数
0.523kg-CO₂/kWhを用いています。≫

項目 単位	H24年9～8月 (基準年度)	H28年9月～8月 (削減率)	H29年9月～8月 (削減率)	H30年9月～8月 (削減率)	R元年9月～8月 (削減率)
二酸化炭素排出量 kg-CO ₂ / 産廃売上 (百万円)	2,395	2,299 (▲4%)	2,275 (▲5%)	2,251 (▲6%)	2,228 (▲7%)
電力の使用量 kWh / 産廃売上 (百万円)	784	752 (▲4%)	744 (▲5%)	737 (▲6%)	729 (▲7%)
軽油の使用量 ℓ / 産廃売上 (百万円)	442 H26年度基準	433 (▲2%)	428 (▲3%)	424 (▲4%)	420 (▲5%)
A重油の使用量 ℓ / 産廃売上 (百万円)	311 H26年度基準	305 (▲2%)	302 (▲3%)	299 (▲4%)	296 (▲5%)
軽油+A重油の使用量 ℓ / 産廃売上(百万円)	760 H26年度基準	745 (▲2%)	737 (▲3%)	730 (▲4%)	722 (▲5%)
水使用量(西向島分) m ³ / 産廃売上 (百万円)	0.601	0.577 (▲4%)	0.571 (▲5%)	0.565 (▲6%)	0.559 (▲7%)
再生路盤材販売量 (絶対量) 千t / 年	128 H28年度基準 増加率	128 (+0%)	129 (+1%)	131 (+2%)	132 (+3%)

※ 軽油+A重油の使用量はA重油を発熱量を基準に軽油量(係数1.02261倍)に換算しています。

※ 環境配慮サービスは「再生路盤材販売量」増加を実施します。

※ 化学物質の取扱はありません。

5-1 環境目標(つづき解体工事)

【解体工事関係】 売上高は自社施工分の名目売上高(=自社施工工事高)を基準としています。

項目 単位	H24年9～8月 (基準年度)	H28年9月～8月 (削減率)	H29年9月～8月 (削減率)	H30年9月～8月 (削減率)	R元年9月～8月 (削減率)
二酸化炭素排出量 kg-CO2 / 自社施工工事高 (百万円)	2,097	2,013 (▲4%)	1,992 (▲5%)	1,971 (▲6%)	1,950 (▲7%)
軽油の使用量 ℓ / 自社施工工事高 (百万円)	38.1	36.6 (▲4%)	36.2 (▲5%)	35.8 (▲6%)	35.5 (▲7%)
A重油の使用量 ℓ / 自社施工工事高 (百万円)	737.5	708.0 (▲4%)	700.9 (▲5%)	693.8 (▲6%)	686.7 (▲7%)
軽油+A重油の使用量 ℓ / 自社施工工事高 (百万円)	792	761 (▲4%)	753 (▲5%)	745 (▲6%)	737 (▲7%)
定性的評価 解体時に発生する環境 影響を回避ないし削減す るための手順書に基づい て評価する	—	活動項目を1件 増やす	活動項目を2件 増やす	活動項目を3件 増やす	活動項目を3件 増やす

※ 軽油+A重油の使用量はA重油を発熱量を基準に軽油量(係数1.02261倍)に換算しています。

※ 解体工事関係の燃料使用量については、受注物件で大きく変動しますが、平成24年度実績を基準年度としました。

5-2 環境活動の実績と評価

【全社】 《平成30年9月～令和元年8月》

《電力に係る二酸化炭素の排出係数は、関西電力の平成26年度の調整後排出係数0.523kg-CO₂/kWhを用いています。》

基準年度欄の数値は、上段：排出量、下段：原単位、実績値欄の数値は、上段：排出量、中段：実績原単位、下段：原単位目標値に対する達成率です。

項目 単位	平成24年度 H24/9-H25/8	平成30年度 原単位目標値	実績値 (達成率%)	評価
全社売上高 (百万円)	1,613		4,896	原単位は売上高百万円あたりの数値になっています。
CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	1,820,199		2,630,072	○ 目標を達成しました
kg-CO ₂ / 売上高	1,128	1,061	509	事業が引き続き順調に伸びたため二酸化炭素排出量は1.4倍に増加しましたが、売上げが3.0倍に増加し、重油から軽油への転換を進めましたので、売上高ベースでは排出量削減が進みました。
原単位改善率		(▲6%)	52.0% 減少	
電力の使用量 kWh	322,024		389,178	○ 目標を達成しました
kWh / 売上高	199.6	187.6	79.5	全社の消費電力は北港リサイクルセンター新設工事により前年比11%増加しましたが、目標原単位はクリアしました。
原単位改善率		(▲6%)	57.6% 減少	
ガソリンの使用量 L	27,634.2		42,704	○ 目標を達成しました
L / 売上高	17.13	16.10	8.72	事業の拡大に伴って使用量は増加しましたが、売上げの増加の増加率が大きかったため目標原単位を上回ることができました。
原単位改善率		(▲6%)	45.8% 減少	
燃料油の使用量 L	602,223		732,442	○ 目標を達成しました
原単位 L/売上高	373	351	150	軽油と重油の燃料使用量合計は産廃及び残土運搬車両の増強に伴い、1.5倍に増加しましたが、売り上げが増加し、重油の軽油への転換を進めましたので、原単位は向上しました。
原単位改善率		(▲6%)	57.4% 減少	
一般廃棄物排出量(袋)	322		380	○ 目標を達成しました
袋 / 売上高	0.199	0.187	0.078	業務量が増加し社員数も増強したため、排出量は1.2倍に増加しましたが、売り上げ増加がそれを上回りました。
原単位改善率		(▲6%)	58.6% 減少	
水使用量 m ³	305		3,054	× 目標を大幅に超過しました
m ³ / 売上高	0.189	0.178	0.624	北港リサイクルセンターの新棟建設工事にもなう上水の利用が増加しました。来期以降は元の水準に戻る見通しです。
原単位改善率		(▲6%)	251.0% 増加	
グリーン購入 購入計	626,019		776,344	○ 目標を達成しました
うちグリーン品購入額(円)	353,909		647,632	
グリーン品購入比率	56.5%	79.0%	83.4%	グリーンマークつきの製品を意識して購入するようにした結果、当面の目標値60%以上を達成しました。
購入比率改善率		(+4P)	4.4%P 増加	
再生路盤材販売量	128	131	135	○ 目標を達成しました
H28年度基準		(+2%)	3.5% 増加	基準年を平成28年度に変更した結果、目標値13万1千トンに対し販売実績は13万5千トンとなり、目標を達成しました。継続して販売先の開拓に努めます。
千t / 年	増加率			

※ 軽油+A重油の使用量はA重油を発熱量を基準に軽油量(係数1.02261倍)に換算しています。

※ 上記の表において単に売上高としているものは全社の売上高です。

※ 達成率は目標数値に対する増減割合を示します。

5-2 環境活動の実績と評価(つづき産廃業)

【西向島リサイクルセンター(北港リサイクルセンター分を含む)】

《電力に係る二酸化炭素の排出係数は、関西電力の平成26年度の調整後排出係数0.523kg-CO₂/kWhを用いています。》

基準年度欄の数値は、上段:排出量、下段:原単位、実績値欄の数値は、上段:排出量、中段:実績原単位、下段:原単位目標値に対する達成率です。

項目 単位	平成24年度 H24/9-H25/8	平成30年度 目標値	実績値 (達成率%)	評価
産廃部門売上高 (百万円)	H24 389 H26 583		784	原単位は売上高百万円あたりの数値になっています。
CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	1,179,309		1,322,293	○ 目標を達成しました
kg-CO ₂ / 産廃売上	2,395	2,251	1,548	事業が引き続き順調に伸びたため二酸化炭素排出量は1.1倍に増加しましたが、処分業売上げが2.1倍に増加し、重油から軽油への転換を進めましたので、売上高ベースでは排出原単位が向上しました。
原単位改善率		(▲6%)	31.3% 減少	
電力の使用量 kWh	305,167		337,580	○ 目標を達成しました
kWh / 産廃売上	784	737	430	全社の消費電力は基準年度比約10%増加であったのに対して、売り上げが約2倍に増加したため原単位は向上しました。
原単位改善率		(▲6%)	41.6% 減少	
燃料油の使用量 L	443,159		521,438	○ 目標を達成しました
L / 産廃売上	760	730	665	北港リサイクルセンター工事の影響もあり、軽油と重油の燃料使用量合計は基準年比18%増加しましたが、売上高が基準年比で大きく増加していますので、原単位は約9%向上しました。
原単位改善率	H26年度基準	(▲4%)	8.9% 減少	
水使用量 m ³	234		3,054	× 目標未達となりました
m ³ / 産廃売上	0.601	0.565	3.893	北港工場のリサイクルセンター新棟建設に伴って、水を大量に使用したため目標を大幅に上回る結果になりました。来期以降は従来の水準に戻る見通しです。
原単位改善率		(▲6%)	589.2% 増加	
再生路盤材販売量	128.0	130.6	135.2	○ 目標を達成しました。
千t/年	H28年度基準			基準年を平成28年度に変更した結果、目標値13万6百トンに対し販売実績は13万5千トンとなり、目標を達成しました。継続して販売先の開拓に努めます。
販売量増加率	増加率	(+2%)	3.5% 増加	

※ 達成率は目標数値に対する増減割合を示します。

5-2 環境活動の実績と評価(つづき産廃業)

【解体工事関係】 《平成30年9月～令和元年8月》

項目 単位	基準年度 平成24年度	目標値 平成30年度	実績値 (増加率%)	評価
解体工事売上高 (自社施工分)	455.2		1,553.5 (+241%)	原単位は売上高百万円あたりの数値になっています。
CO ₂ 排出量 kg-CO ₂	954,469		1,181,647	○ 目標を達成しました
kg-CO ₂ / 解体売上	2,097	1,971	761	事業が引き続き順調に伸びたため二酸化炭素排出量は約24%増加しましたが、売上高が2.4倍に拡大しましたので、売上高ベースでは排出原単位が向上しました。
原単位改善率		(▲6%)	61.4% 減少	
燃料油の使用量 L	360,638		211,004	○ 目標を達成しました
L / 解体売上	792	745	136	軽油と重油の燃料使用量合計は平成24年度とほぼ同じでしたが、解体工事の工事高が約2.4倍と大きく増加しましたので、原単位は大幅に向上しました。
原単位改善率		(▲6%)	81.8% 減少	
定性的評価 解体時に発生する環境影響を回避ないし削減するための手順書に基づいて評価します	(1) 廃材の分別	リサイクルセンターから優秀の評価をもらう。	リサイクルセンターから良好であるとの評価を引き続きいただいています。	解体工事では、常に近隣住民や元請会社、発注者の目が光っており、それだけに社内的にも厳しく指導しています。 社長から、「急成長している会社は、つい社員の気が緩みがちになったり、傲慢な態度になったりしやすい。そのようなことをするとあつという間に評判が落ちてしまう。謙虚さを常に持って業務にあたるように。」と厳しく指導しています。 施工管理者制度で社員のステータスがあがり、自社工事はもちろんですが、外注工事についても、下請業者に対して厳しく指導を行っていますので、関係者から高い評価を得ています。 IBMの解体工事の様子が平成30年12月20日22時からNHKで放送されました。ゼネコン各社や社内他部門の方々からも反響が多数ありました。事務部門の方々には都会の真ん中での解体工事の難しさがよくわかったようです。 今後もこの状況を継続できるように身を引き締めて業務に臨んでまいります。 重機の更新にともない、第5次排ガス規制車両を1台昨年11月に導入しました。(日立ZX250LCK(0.9m3))
	(2) 解体時の騒音・粉じん対策	①住民苦情なし ②元請評点アップ	①住民からの苦情はありませんでした。 ②元請からの評点は最良点を継続していただきました。	
	(3) CO ₂ 削減	省燃費運転の徹底	③省燃費運転はよくできました。	

※ 電気および水道の使用については、元請会社一括管理になっているため当社分を把握できていません。

※ 上記の表において自社解体売上としているものは自社で解体工事を直接行った工事のうち、本年度工事施工分を計算して算出しています。

1 年度内に着工し完工したものは請負金額

2 複数年度にまたがって工事したものについては、請負金額×(年度内工事日数/全工事日数)により計算

3 日数には祝祭日休日も含んでいます。

※ 廃材の搬出量については、廃棄物関係で把握しています。

6. 主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

(平成30年 9月～令和元年 8月)

環境目標	取り組み項目	評価(○:良好 △:不十分 ×:未実施)	
CO ₂ の削減	—		—
電力使用量の削減	取り組み事項の説明(教育)	○	本年度も9月、1月、4月に全社員を対象に取組み状況および今後の進め方について教育を実施しました。
	不要時の消灯	○	不要な場所や休憩時の消灯がほぼ徹底できました。
	運転停止時の電源オフ	○	昼休憩時や終業後は電源オフが徹底してきました。
	エアコン温度管理の徹底	○	エアコンの使用を控えることができました。
	エアコン点検記録	○	日常目視点検及び月次簡易点検を行いました。
	削減目標の達成結果	○	削減目標を達成しました。今後も省電力推進手順書に基づいてこまめな活動を推進して更なる削減を目指します。
燃料使用量の削減	取り組み事項の説明(教育)	○	本年度も9月、1月、4月に全社員を対象に取組み状況および今後の進め方について教育を実施しました。
	車両の点検整備の徹底	○	月次点検、日常点検を徹底して実施しました。
	車両の走行距離の低減	○	収集運搬経路をあらかじめ調査し、無駄な走行をしないようにしました。
	エコドライブ・省燃費運転の徹底	○	エコドライブ、省燃費運転の教育を実施し、運転手に実践を徹底しました。また燃費データを車両ごとにとり、燃費の改善を継続して進めています。
	削減目標の達成結果	×	北港工場において残土処理を開始したこと、自社車両を1台増強しましたが、軽油・重油合計の原単位を改善することができませんでした。ダンプの燃費はH29年度2.01km/Lから今年度1.91km/Lと大幅に悪化しました(目標値2.01km/L)。近距離工事が大半を占めたことが原因です。引き続きさらなる改善を目指します。
廃棄物排出量の削減	取り組み事項の説明(教育)	○	本年度も9月、1月、4月に全社員を対象に取組み状況および今後の進め方について教育を実施しました。
	廃棄物の分別の徹底	○	産業廃棄物の分別は、重機を利用し粗分けした後、手選別によりさらに分別精度を上げており、ゼネコン業者からも高い評価を受けています。一般ごみの減量を図るため、昼食は給食業者の弁当を引き続き利用し、空容器の発生を抑制しています。
	リサイクル用途の開拓	○	新たな用途開拓を進めました。
用水使用量の削減	洗車時の節水の徹底	○	従来以上に節水を指示徹底しました。洗車用水にも雨水を積極的に使用するよう徹底してまいります。
	雨水の再利用	○	西向島リサイクルセンターでは雨水を大型地下槽に貯めて、破碎時の散水および収集運搬車のタイヤ洗浄に使用しています。
	漏水の点検	○	日常点検で確認しました。
	削減目標の達成結果	×	今年度は北港リサイクルセンターの整備工事で前年比4倍強と大量の上水を使用したことから、原単位が大きく悪化しました。
グリーン購入の拡大	環境ラベル認定等製品の優先的購入	○	需要の多かったペットボトルのお茶がグリーン指定から外れたためグリーン購入比率は前年度の86%から83%に下がりました。当面の目標60%は達成していますが、今後も比率アップを目指して購入品の調査検討を継続してまいります。
再生路盤材販売量の拡大	顧客新規開拓	○	再生路盤材の販売量(有償販売分)は前年度とほぼ同量でした。引き続き有償販売先の開拓に努めてまいります。
本来業務の環境活動の推進	関係企業とのコミュニケーション推進	○	業界団体の役員に就任し諸活動を行うとともに、元請け会社や協力会社との諸会合に積極的に参加しました。ゼネコンから優良下請け業者として感謝状をいただきました。
	地域活動への積極的参加	○	本社、リサイクルセンターなど会社周辺道路の清掃を実施するとともに、本年度も大阪ベントナイト(事)の環境対策キャンペーンに参加し、大阪南港の道路清掃を行いました。また、本社およびリサイクルセンターの入口付近にAEDを設置し、社外の方も利用できるようにしています。

7. 環境・安全への取り組み



職長会

毎週1回、工事部・営業部・管理部全員が集合し、本社大会議室の大型モニターで各現場の予定・進捗・イベントを現場責任者が発表するとともに、危険個所の発見に努めています。



ダンプ会議

毎月1回、自社・庸車のダンプ運転手・産業廃棄物処理施設責任者が集合し、産業廃棄物処理施設の会議室にて兵庫県警やトラック協会から資料をもとにエコドライブや安全講習を行っています。



環境・安全協議会（昇友会）

毎月1回、本社会議室にて環境・安全協議会を行っています。また、毎月2回、営業部・管理部・昇友会会員2名による、各現場の抜き打ちパトロールを行っています。



安全大会

年1回、協力業者・関係者・社員合わせて約130名程度で安全標語や現場の安全表彰を行います。また、ゼネコン様の安全担当者や安全に関する専門家の方々をお招きし、ご講和いただいています。

8. 主な環境関連法令への違反、訴訟等の有無

適用される法令	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	遵守確認
廃棄物処理法	産業廃棄物の収集・運搬、処分にかかる許可手続き、保管基準、処理基準、委託基準の遵守	○
自動車NOx・PM法	排ガス基準の遵守	○
オフロード法	重機入れ替え時に排ガス基準適合車の購入	○
大阪府生活環境の保全等に関する条例	流入規制の遵守 大気汚染防止法の特定期間排出等作業届出が必要な工事で「石綿の使用面積が50㎡以上」の場合石綿濃度の測定計画の届出義務あり。また、「石綿含有成形板」の場合は、使用面積が1,000㎡以上の場合「石綿排出等作業」の届出義務あり。	○
兵庫県環境の保全と創造に関する条例	流入規制の遵守 大阪府と同様であるが、床面積が1,000㎡以上あるいは、「石綿若しくは石綿をその重量の0.1%を超えて含有する建築材料を使用し、床面積が80㎡以上」の場合条例に基づく届け出必要。	○
下水道法	排水基準の遵守	○
大気汚染防止法	粉じん発生基準の遵守 特定粉じん排出等作業届出(吹付け石綿、石綿を含有する断熱材・保温材・耐火被覆材がある場合)	○
土壌汚染対策法	①3,000㎡以上の土地の形質変更を予定している工事 ②有害物質を取り扱う工場・事業場の解体工事 ③法及び条例に基づく区域指定等を受けた土地の工事 汚染土壌の搬出計画届出、運搬基準の遵守	○
建設リサイクル法	建設廃棄物のリサイクル計画、工事届出義務の遵守 特定建設資材廃棄物(コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材)は再資源化の義務あり	○
労働安全衛生法	アスベスト等を使用した建築物の解体工事基準の遵守	○
石綿障害予防規則	アスベスト等を使用した建築物の解体工事基準の遵守	○
騒音規制法	騒音に係る特定建設作業(法、条例に基づく届け出)基準の遵守	○
振動規制法	振動に係る特定建設作業(法、条例に基づく届け出)基準の遵守	○
PCB特別措置法	PCB含有の恐れがある機器等の保管処分の規制の遵守	○
フロン排出抑制法	フロンを使用している業務用エアコンや冷凍冷蔵機器の有無確認・点検等の規制遵守・対象機器の定期点検実施と記録の保存	○
建設業法	解体工事業を含め各種業種の基準の遵守	○

環境関連法規への違反・訴訟はありません。なお、関係当局などからの違反等の指摘は過去3年間ありません。

9. 有資格一覧 / QUALIFICATION

資格名		資格名	
一級建築士	3名	二級建築士	1名
一級建築施工管理技士	4名	二級建築施工管理技士	2名
一級とび技能士	2名	解体工事施工技士	18名
二級管工事施工管理技士	1名	ダイオキシン類業務に係る作業指揮者	7名
監理技術者	9名	運行管理者	3名
宅地建物取引主任者	1名	土壤環境保全士	1名
廃棄物管理士	2名	二級自動車整備士	1名
雇用管理士	1名	二級土木施工管理技士	1名
一般主任計量者	2名	環境カウンセラー	1名
安全運転管理者	1名	公害防止管理者（大気1種）	1名
産業廃棄物・汚染土壌排出管理者	1名	公害防止管理者（水質1種）	1名
環境計量士	1名	公害防止管理者（騒音）	1名
ISO14001 審査員補	1名	公害防止管理者（振動）	1名
労働安全コンサルタント	1名	公害防止管理者（ダイオキシン類）	1名
甲種火薬類取扱保安責任者	1名	技術士（建設部門）	1名
一級建設機械施工管理技士	1名	測量士補	1名
一級土木施工管理技士	3名		

2018年（平成30年）1月現在

10. 総括(代表者による全体評価と見直し)

平成30年度は売上高が前年比6%減の48億9千万円となりました。処分業、解体業共に6%の減になったためです。工事が減少しましたので、自社工事の割合を増やした結果、自社工事高は15億5千万円と平成28年度を上回りました。

- ① 全社の指標では、軽油＋重油の原単位は前期比87%となりました。一方ガソリンの原単位は前期比113%と悪化しましたが、売上げ減少と北港工場の申請関係や西向島との往来が増加した影響が出たものです。当社社員および協力会社社員は、従来にも増してエコドライブを率先実行して、燃料の節約と二酸化炭素排出削減に貢献し、地域住民から感謝されるようにいたします。
- ② 処分業では、北港リサイクルセンターの整備工事、産廃処理工場の建設工事の影響で、電量および上水の使用量が大幅に増加し、原単位が悪化いたしました。また、収集運搬車の燃費は目標値2.01km/Lに対し、実績1.91km/Lと大きく落ち込みました。工事現場と処分場が近かったため、積み荷の揚げ下ろし時間の比率が相対的に高くなったためです。これで良しとするのではなく、今後も省燃費運転に工夫を加え、燃料使用効率の向上につなげてまいります。
- ③ 解体工事では重機関係に使用する重油がゼロになりました。重油切り替えの関係で軽油の原単位は目標を超過していますが、軽油と重油を合計した燃料トータルの原単位は大きく改善されています。また、韮本町の工事の様子がNHKで放送された影響もあり、当社への信頼度がますます高くなっています。
- ④ グリーン購入では、社員の意識向上があり、おかげさまでグリーン比率が79%となりました。平成29年度に比べ下がったのは、ペットボトルのお茶がグリーン商品から外れたためですが、当面の目標値77%はクリアしました。冷水用のサーバーを導入してペットボトルの飲料水や缶コーヒーの削減にも取り組みました。コピー用紙の使用量原単位は昨年に引き続き申請関係や見積り作業が増加しました影響で、前年度比23%増になりました。社内文書にはコピーの裏紙使用などを再度徹底していきます。

令和元年度には北港工場で産廃処分および積み替え保管施設を来年1月ごろ立ち上げる予定で現在工事中です。ますます忙しくなりますが、安全管理にはよりいっそう気を配って、安全操業を継続してまいります。

11. 次年度での取り組み

- (1) 運搬車両の燃費の目標値を、令和元年度は2.01km/L(今年度と同じ)として燃費向上に取組みます。
- (2) 解体工事関係では、韮本町のビル解体工事をはじめ、各ゼネコンからの高評価・表彰をバネにして、今後も引き続き受注の拡大を図るとともに、原単位の改善を進めます。
- (3) グリーン購入比率は83%で目標を達成しましたが、前年度を下回りました。購入品の内容をもう一度見直して、改善の余地を見つけて、今年度を上回る比率を目指します。
再生路盤材の販売は、平成28年度から有償販売の数量を基準にしました。平成30年度は昨年比1%増加の計画に対し3.5%増加になりました。次年度以降も毎年1%の伸びを目標に設定します。
- (5) 社員表彰制度は次年度から安全大会の中に統合する形で実施するようにします。
- (6) 北港工場の産廃処分および積み替え保管の許可を令和2年1月に取得し、操業開始する見通しです。